

東京都遺跡調査・研究発表会

50

発表要旨



令和7年2月9日

くにたち市民芸術小ホール

主 催 東京都教育委員会
国立市教育委員会

共 催 (公財) 東京都教育支援機構
東京都埋蔵文化財センター

【表紙口絵】^{きたしらかわ}北白川C式土器（^{みどりかわひがし}緑川東遺跡出土）

国立市の北西部に位置する緑川東遺跡は縄文時代中期から後期にかけての集落跡で、住居跡等が4軒発見されました。うち1軒の^{しきいし}敷石遺構の中央部から4本の大形石棒が並べられ、この石棒の周辺からは異なる地域に由来する土器が出土しました。これらの土器は意図的に置くというよりも無造作に置かれたり、投げ込まれたものと考えられています。

表紙の土器は主に関西地方に分布する北白川C式系統で、時期的には中期末葉から後期初頭に属すると思われます。他の土器は関東地方の^{かそり}加曽利E V式土器と関西・東海地方の影響を受けた^{なかつ}中津式土器です。

大形石棒は平成29年（2017）に国の重要文化財に指定され、共伴した表紙の土器と加曽利E V式土器に赤彩された中津式土器を加えた3点も^{つけたり}附指定されました。

（文：竹尾 進）

目 次

【午前の部】

開会挨拶 10:00～10:05 東京都教育庁地域教育支援部管理課長

発表1 10:05～10:35

町田市 史跡 高ヶ坂石器時代遺跡 後藤貴之 2

発表2 10:35～11:05

足立区 伊興・谷下・狭間遺跡 上野未来 4

発表3 11:05～11:35

千代田区 永田町一丁目遺跡 佐藤亮太 6

発表4 11:35～12:05

文京区 原町西遺跡 五十嵐 彰 8

昼 休 み 60 分

【午後の部】

開催市挨拶 13:05～13:15 国立市教育委員会教育部生涯学習課長

講演会 東京都における近世・近代の埋蔵文化財調査

13:15～13:30 主旨説明 平田 健

13:30～14:30 講演①「江戸遺跡の調査を振り返って」 古泉 弘 10

休 憩 10 分

14:40～15:40 講演②「都指定有形文化財『旧本田家住宅』の調査について」

清水 香 12

休 憩 10 分

15:50～16:50 講演③「考古学からみた江戸と多摩」

谷川章雄 14

閉会挨拶 16:50～16:55 東京都教育庁地域教育支援部管理課課長代理

参考資料 第1回から第49回までの発表遺跡等のリスト 16

1 町田市 史跡 高ヶ坂石器時代遺跡

時代 縄文時代

遺構 敷石住居跡、配石遺構

遺物 土器、石器

キーワード 敷石住居跡、国指定史跡

調査概要

高ヶ坂石器時代遺跡は大正14年(1925)、日本で初めて縄文時代の敷石住居跡が発見された遺跡です。牢場遺跡・稲荷山遺跡・八幡平遺跡の3地点から構成されます。牢場遺跡からは敷石住居跡1軒、稲荷山遺跡からは配石遺構1基、八幡平遺跡からは敷石住居跡1軒が確認されています。大正15年(1926)に国の史跡に指定されました。

高ヶ坂石器時代遺跡は指定後、長らく民有地でしたが、町田市が土地の公有地化を進め、高ヶ坂石器時代遺跡を整備・活用するため、平成26年(2014)に『国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡保存管理計画』を策定しました。計画に基づき史跡の再整備の資料とするため3遺跡の遺構の再確認調査を実施しました。

遺跡の再調査

・牢場遺跡

平成27・29年(2015・2017)、令和2・3年(2020・2021)に調査を実施しています。牢場遺跡はこれまで円形の敷石住居跡と考えられていましたが、調査の結果、柄鏡形の可能性が高いことがわかりました。時代についても、これまで中期加曾利E式期のものとされてきましたが、大正時代の調査写真や、再調査時の採集遺物から後期堀之内1式期の所産のものと考えられます。また、令和3年(2021)の調査では敷石住居跡の北西から後期堀之内式期の竪穴建物跡1軒が確認されました。

・稲荷山遺跡

平成26年(2014)に調査を行いました(第6図)。調査区の南側では、5～10cmほどの表土下から、こぶし大の礫が確認されました。北側では、25～30cmほどの表土下から、大正時代調査の配石遺構が確認されました。調査の結果、配石遺構は一部が消失していることが判明しましたが、それ以外は大正時代の調査時のまま保存されていました。また、配石遺構が住居跡である可能性を調べるため、礫の検出されていない場所の掘り下げを行いました。柱穴や炉跡は確認されませんでした。また、遺構を覆って

いた土の中には多数の土器片が混入していました。土器片は後期堀之内式を中心に後期～晩期のものです。

・八幡平遺跡

平成26年(2014)に調査を実施しました(第8図)。敷石住居跡は敷石面までの調査を実施し、敷石部の掘り込みプランと、敷石部の南東側に柄部が付帯することが確認されました。北側は敷石が除去されており、掘り方の様相が確認できました。炉跡は中央やや西側に配される石囲炉です。過去の調査では石皿を含む7個の礫で構成されていることがわかっていました。しかし、今回の調査では石皿を含む3個の礫が除去された状態で確認されました。出土遺物から中期加曾利EIV式期のものと考えられます。

これらの調査成果をもとに、平成26年(2014)から令和6年(2024)にかけて整備工事を実施しました。

史跡の再整備

・牢場遺跡

敷石住居跡は発見以来、実物を見学できるよう覆屋をかけ現地で保存されてきました(第3図)。今回の整備でもそれを踏襲し、これまでの覆屋に近い形のものや西側に配される石囲炉です。過去の調査では石皿を含む7個の礫で構成されていることがわかっていました。しかし、今回の調査では石皿を含む3個の礫が除去された状態で確認されました。出土遺物から中期加曾利EIV式期のものと考えられます。

・稲荷山遺跡

実物の配石遺構の上に50cm程の盛土を施し、その上に川原石を用いて遺構を再現しています(第4図)。

・八幡平遺跡

実物の敷石住居跡の上に1m程の盛土を施し、その上に川原石を用いて遺構を再現しています(第5図)。八幡平遺跡は高台に立地するため見晴らしが非常によく、横浜方面を眺望することができます(第7図)。

高ヶ坂石器時代遺跡の発見以降、町田市内では数多くの遺跡が調査されています。特に縄文時代の遺跡が多く、「縄文のまちだ」と言っても過言ではありません。「縄文のまちだ」の先駆けとなった高ヶ坂石器時代遺跡発見から令和7年(2025)10月で100年の節目を迎えます。この機会に多くの方々が見学にいらっしやることをお待ちしております。

日本で初めて調査された敷石住居跡



第1図 整備後の牢場遺跡



第2図 新しい覆屋



第4図 整備後の稲荷山遺跡



第3図 旧覆屋



第5図 整備後の八幡平遺跡



第6図 稲荷山遺跡再調査



第7図 八幡平遺跡空撮



第8図 八幡平遺跡再調査

2 足立区 伊興・谷下・狭間遺跡

時代 古墳時代

遺構 土坑、溝、ピット

遺物 馬の歯、石製模造品、土師器、須恵器

キーワード 祭祀遺跡、意図的に打ち欠いた大量の土器片、破断面を磨き整えた土師器、馬の歯

調査概要

伊興・谷下・狭間遺跡は、足立区の東伊興1丁目から4丁目及び伊興本町1丁目から2丁目にまたがる範囲に所在する、足立区で最大の面積を誇る遺跡です。北を大宮台地、東を下総台地、西を武蔵野台地に囲まれた東京低地の北西部に位置し、埼玉県との境を流れる毛長川流域の微高地に立地しています。毛長川はかつて幅200m以上の大河で、大きく蛇行していました。当時の水上から内陸への交通の要所であったと考えられます。当遺跡は、縄文時代から近世にかけての複合遺跡ですが、集落の形成は古墳時代初頭にはじまり、特に古墳時代中期に隆盛をみます。

令和5年(2023)2月1日から3月24日まで第4次調査が実施されました。今回の発掘調査面積は210㎡で、遺跡範囲の中では北西端に近い箇所です。調査地点北北東側には湊の宮とよばれる伊興氷川神社があり、北東側には当遺跡の中心と考えられる伊興遺跡公園が所在します(第1図)。

調査成果

今回の発掘調査で確認した遺構は、古墳時代の土坑30基、溝1条、ピット41基、古墳時代以降の溝4条、ピット7基、中世の土坑2基、近世以降の杭跡群1か所、ピット2基です。遺構及び各グリッドから出土した遺物は、破片点数にして土師器・須恵器10,312点で、意図的に打ち欠いたような状態で出土するものが多く、1点ごとの平均重量はわずか13.6gです。土錘などの土製品16点、石製品は白玉22点、石製模造品3点、中世の土器皿1点、陶器片2点、動物遺体として古墳時代の遺物とともに馬の臼歯が出土しています。

調査範囲では北西側と中央部に多くの遺構が存在しています。中央部にある40B号から40E号は古墳時代の遺物が出土する遺構で、出土遺物に大きな時期差はなく、遺構を超えて破片同士が接合する

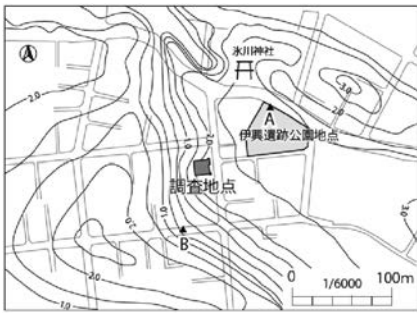
例もみられます。40B号からは破断面を磨き整えている土師器^{つぎ}坏と土師器^{かめ}甕(第8図)が出土しています。40D号遺構からは柱状の土製品(第9図)が出土しています。竪穴住居のカマドから出土する支脚に大きさ、形とも類似していますが、支脚に比べると器面は丁寧に整えられ、一部に赤彩がみられます。同様の土製品は40C号遺構と57号遺構からも出土していますが、こちらは赤彩は確認できていません。

他にも石製有孔円盤、勾玉、白玉が出土しています。いずれも滑石製で、有孔円盤・勾玉はともに厚さ3mmから4mmと薄く粗製です。有孔円盤は調査範囲南西隅の45号遺構から2点(第7図)、勾玉が45号と重複する50号遺構から1点出土しています。白玉は調査範囲各所から出土していますが、特に調査範囲西側と、中央部寄りの位置に多く出土しています。白玉の大きさは径が5mm前後のものと7mm強のものがあり、小さい方は中央部寄り、大きい方は西側寄りの位置から出土しています。

2C号土坑からは、打ち欠かれた土師器・須恵器の大甕などととも16点を超える馬の歯が出土しました(第2～4図)。歯長・歯高のサイズからみて1頭分の臼歯で、3歳程度の若年馬と鑑定を受けています。動物遺体は、馬の臼歯のみで頭蓋骨^{とうがい}や下顎骨、四肢骨などは出土していません。臼歯のほとんどは解剖学的位置を留めず散在していましたが、一部は解剖学的位置で並んでいました。このことから、元々は頭蓋骨・下顎骨は存在しており、堅牢な臼歯のみが残存したと考えられます。馬を儀礼や祭祀で扱う際にはその頭部を用いることが多いのですが、共伴遺物や、遺跡全体が祭祀遺跡と捉えられていることから、出土した馬も儀礼や祭祀に関連すると考えられます。

今回の調査範囲は古墳時代の祭祀の場と考えられます。出土した遺物はほとんどが古墳時代中期後葉から後期の範囲のものです。調査地点から西は地山であるシルト層面の標高が低いため、調査地点は古墳時代においては水辺に張り出しており、水辺の祭祀が行われていたと考えられます。

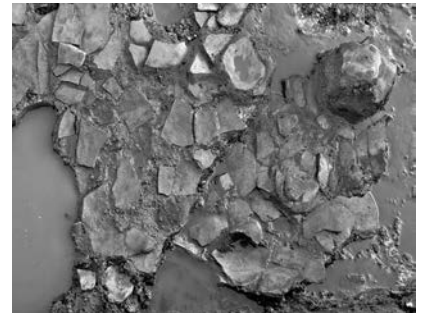
馬の頭部を用いた古墳時代の祭祀遺跡



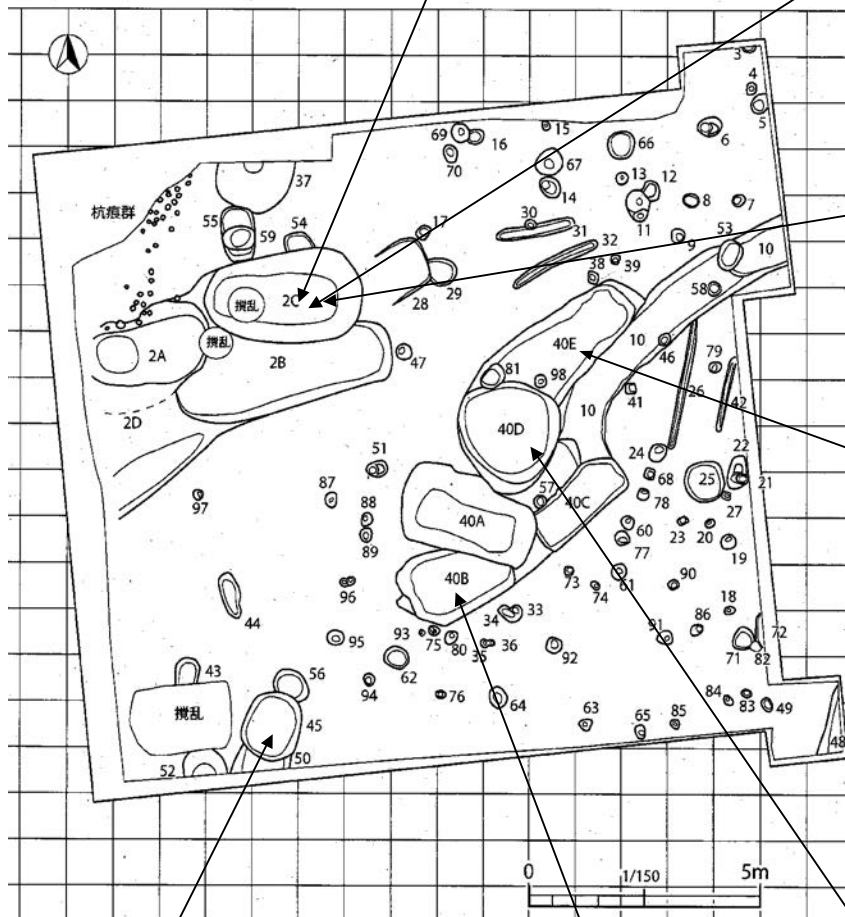
第1図 調査地位置図



第2図 馬の歯と土師器高坏の脚



第3図 須恵器大甕破片



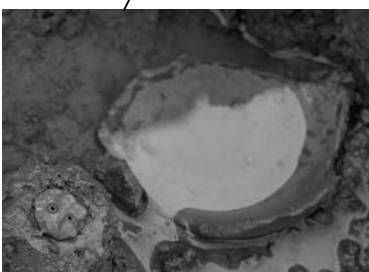
第6図 遺構全体図



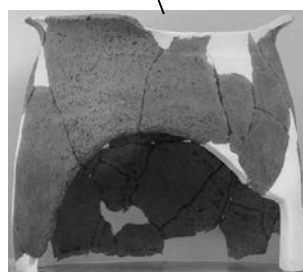
第4図 土師器鉢



第5図 須恵器提瓶



第7図 有孔円盤と土師器坏



第8図 破断面を磨き整えた土師器



第9図 柱状の土製品

3 千代田区 永田町一丁目遺跡

時代 中世、近世、近代

遺構 ほったてばしら 掘立柱建物跡（中世、近世）、礎石建物跡（近世）、土蔵基礎（近世）、煉瓦建物基礎（近代）など

遺物 土器、陶磁器、瓦、土製品、金属製品、木製品、ガラス製品、石製品、骨角製品

キーワード 旗本屋敷、土地造成

調査概要

なが た ちょういつちよう め 永田町一丁目遺跡は荒川低地と多摩川低地よどばしだいに挟まれた武蔵野台地東端の淀橋台に属し、東に向かい延びる麴町台地先端部南側の斜面下部に位置する遺跡です。調査地点南側には溜池の谷筋が広がり、東側には溜池から北側へ延びる小支谷があります。江戸時代のこの一帯は「虎御門内新道」と呼ばれる旗本屋敷が多く集まる一角でした（第1図）。

本遺跡は今回の調査で三度目の調査となり、前回までの調査で発見されている旗本屋敷の他、中世に属する遺構や近代の建物跡が発見されました。

・旗本屋敷拝領以前（中世）

旗本屋敷拝領以前に属する生活面は一部で段切りが行われており、形成された緩やかに傾斜する平坦面から掘立柱建物跡（第3図）、堅穴状遺構（第4図）、ぞうこつ き蔵骨器、土坑、ピットが発見されました。また、調査区内を南北に走る埋没谷があり、斜面の崩落や埋立てが繰り返されてきたことが明らかになりました。

遺物は土器や陶磁器、どすい土錘などが出土しています。陶磁器や土器には香炉やかわらけなど特徴的な遺物が含まれており、発見されている遺構からもこの遺跡には、きょかん居館や寺院と関係のある特殊な施設が存在したことが想起されます。

・旗本屋敷（近世）

先述の掘立柱建物跡やピット群が廃絶されたのち、厚いところで1mにも及ぶ盛土が行われ、平坦な土地が造られました。この土地は分割され、それぞれが旗本屋敷として利用されることになります。

調査区北側は旗本成瀬家、のちに旗本鳥居家が、南側には旗本川窪家、のちに旗本保科家こ い まつだいらが屋敷を構えました。また、調査区北西隅は旗本五井松平家、南東隅も旗本林家（吉田家ほか複数回の屋敷替えあり）の屋敷の一部にかかっていることが絵図などか

らわかっています。屋敷境には地境の溝や石垣が形成されました（第5図）。溝や石垣は近世中の火災や居住者の変更に伴う造成に際しても継承されており、特に石垣は調査開始時まで地境として残存していました。

火災や居住者の変更などに伴う造成には多量の土砂が必要となりますが、本遺跡では土砂に加えて廃棄された瓦や陶磁器も利用されていました。造成に使用された瓦の中には福岡藩黒田家の家紋である藤巴ふじが描かれた瓦（第6図）や福岡藩の瓦生産地である「今宿」などの刻印の入った瓦が含まれていました。

このほか、旗本屋敷に関わる遺構としては、屋敷の主体部にあたる礎石建物跡や土蔵基礎、地下室などが発見されています。

・佐野常民邸以降（近代）

明治期に入ると、旗本鳥居家、保科家両家の屋敷地は明治政府の高官であった佐野常民邸さ の つねたみとなります。今回の調査では佐野常民邸であった時期に新たに構築された遺構は発見されませんでした。しかしながら、明治16年（1883）頃の地図には今回調査で発見された池状遺構（第7図）と考えられる池が描かれていることもあり、少なくとも今回調査範囲においては、佐野常民邸はそれまでの旗本屋敷を居抜きで利用していたものと考えられます（第2図）。その後、佐野邸は解体され、商業地・一般宅地として分割されました。今回調査で発見されている煉瓦基礎（第8図）は佐野邸解体後の宅地の基礎にあたるものと考えています。

調査成果

今回の調査では、旗本屋敷拝領以前の遺構、遺物が発見されたことにより、旗本屋敷拝領以前から地形の改変が行われ、土地が利用されていたことが明らかになりました。また、旗本屋敷から近代の佐野常民邸についても土地造成や土地利用の変遷を探る知見を得ることができました。



第1図 安政3年（1856）の調査地周辺



第2図 明治16年（1883）の調査地周辺



第3図 中世の掘立柱建物跡・ピット群



第4図 中世の竪穴状遺構



第5図 屋敷境の石垣と瓦を多量に含んだ整地層



第6図 福岡藩黒田家家紋「藤巴文」をもつ軒丸瓦



第7図 絵図に描かれた池と考えられる池状遺構



第8図 近代建物の煉瓦基礎

4 文京区 原町西遺跡

時代 縄文時代、近世、近代

遺構 堅穴建物跡（縄文）、御殿堀、井戸、上水溝、地下坑（近世）

遺物 縄文土器、かわらけ、土玉、陶磁器、ガラス容器、衛生陶器

キーワード 黒浜式、徳川綱吉、小石川御殿、かさもり 瘡守稻荷、さかたによしろう 阪谷芳郎

調査概要

文京区原町西遺跡（No. 145）は、文京区の^{はらまちにし}小石川植物園北側に隣接します（第1図）。当センターが発掘調査した原町遺跡（日本銀行原町家族寮地点：No. 21）のおよそ250m北西に位置します。今回調査した箇所は、小石川植物園の北側台地部分に立地しており、「文化財庭園等景観形成特別地区」です。調査の都合上、調査区を3つに分割して調査しました（第2図）。

・縄文時代前期

調査区の中央部から縄文時代前期^{くろはま}黒浜期の堅穴建物跡が見つかりました（第3図）。今からおおよそ5,500年前（校正前）の縄文海進として知られる温暖な時期です。近隣では、お茶の水駅北側に所在するお茶の水貝塚が当時の貝塚として知られています。

・小石川（白山）御殿の堀

小石川（白山）御殿は、^{こうずけたてばやし}徳川綱吉が藩主であった上野館林藩の下屋敷が、延宝8年（1680）に綱吉が将軍に就任して幕府の御殿となりました。元禄11年（1698）には「惣囲い」（堀・土塀・石垣・櫓）が構築されました。堀は上端幅18m・底部幅7.5m、深さ5m余りの巨大なもので、御殿の周囲およそ1.8kmを取り囲んでいました（第4・6図）。御殿堀は元禄9年（1696）に構築された千川上水から水を導き入れた「水堀」です。今回確認された千川上水からの取水口部分には、大きな板石が3枚配置されていました（第5図）。板石の上から口縁部と底部が打ち欠かれた花入れが出土しました。千川上水は、綱吉が江戸市中北部に給水するために元禄9年（1696）に玉川上水の境橋（西東京市と武蔵野市の境界付近）から分水して構築された総延長22kmほどの用水路です。

宝永6年（1709）に綱吉が死去すると、正徳3年（1713）に小石川御殿も廃止となり、堀も埋め戻されました。埋め戻された堀の跡地は、整地されて武家

屋敷となりました。満々と水を湛えた御殿堀は、わずか15年ほどで姿を消し、小石川御殿本体の地には、^{おやくえん}御薬園及び養生所が設けられました。

・瘡守稻荷

御殿堀を埋め戻した埋め土から「かわらけ」と「土玉」が大量に出土しました（第7図）。「かわらけ」には、灯火具として用いられたことを示す煤などの使用の痕跡はほとんど認められません。過去に記された文献資料から「かわらけ」と「土玉」が出土した武家屋敷に「瘡守稻荷」があったことが分かりました。「稻荷社」には様々な病気を癒す効果がありますが、「笠森稻荷」は「笠」が「かさぶた（瘡蓋）」の「瘡」に通じるとして、皮膚病に効果があるとされました。もともとの笠森稻荷は大阪にありましたが、江戸時代に小石川御殿跡地の^{かんとうじ}大前家屋敷と谷中の感応寺に遷座されました。

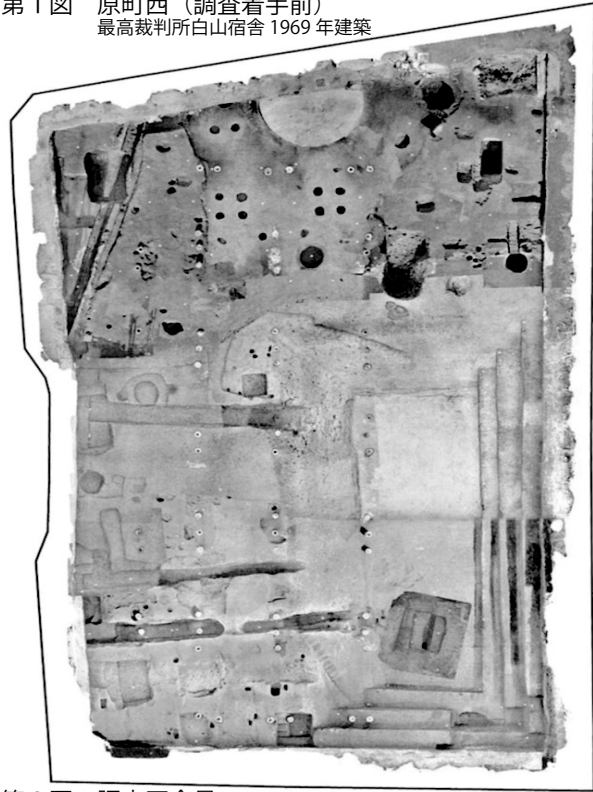
大量の「かわらけ」と土玉が出土した場所は、綱吉に仕えた小普請^{こぶしん}「大前 孫兵衛」の敷地であることが確認されました。また別の文書には寛政9年（1797）には小石川白山の地から谷中に移転したことが記されています。当地には実質80年余り「瘡守稻荷」が存在したようです。江戸時代の民間習俗が文書と絵図に記され、実際に地面を掘って出土した考古資料と見事に符合した興味深い事例です（第8図）。

・日本実業史博物館

調査区を含む周辺一帯は、明治31年（1898）から阪谷芳郎の敷地となります。阪谷芳郎は、明治39年（1906）に第一次西園寺内閣大蔵大臣、明治45年（1912）に東京市長、大正6年（1917）に貴族院議員となり、日本ホテル協会会長、専修大学学長など様々な要職を歴任した実業家でした。昭和16年（1941）に死去した後、その敷地は^{しんしやく}渋沢栄一の義理の息子という関係から、龍門社（現、渋沢栄一記念財団）に引き継がれて、栄一の孫である渋沢敬三によって日本実業史博物館として開館に向けて準備されましたが、戦局の悪化により断念されました。その後、阪谷邸はGHQに接収され、本調査部分は阪谷芳郎の出身地である岡山県出身の学生寮を経て昭和25年（1950）に最高裁判所官舎敷地となりました。阪谷邸に集積された膨大な収集資料は、立川に所在する国文学研究資料館に収蔵されています。



第1図 原町西（調査着手前）
最高裁判所白山宿舍 1969 年建築



第2図 調査区全景 大きく3区に分割して調査



第5図 1区における千川上水注ぎ口 板石3枚と置かれた花入れ



第7図 瘡守稲荷に伴うかわらけ・土玉が集積する大形土坑断面



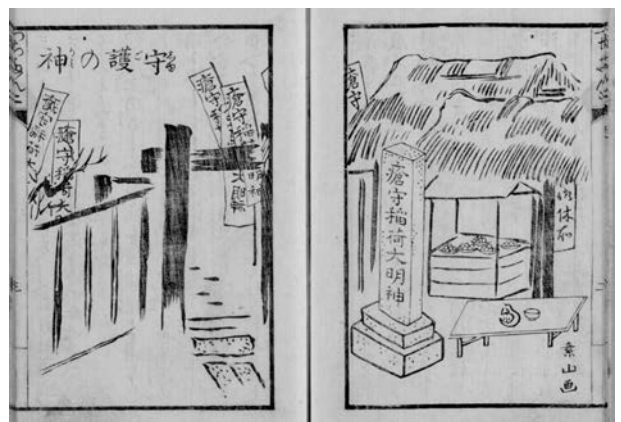
第3図 縄文時代前期黒浜期建物跡
御殿堀によって東側 1/3 を損壊



第4図 1区における御殿堀（北東から）
奥に見える木々は小石川植物園



第6図 2区における御殿堀のコーナー部分（南西から）



第8図 小石川養生所に勤めていた小川顕道による
『瘡家示訓』に掲載された瘡守稲荷と門前の茶屋
(国立国会図書館デジタルアーカイブ
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2539459/1/6>)

講演① 江戸遺跡の調査を振り返って

古泉 弘

1. 江戸遺跡と近世考古学

明治元年（1868）の事実上の遷都以来、東京ではさまざまな規模の土木工事が繰り返されてきました。時に大きな震災や空襲にも見舞われ、そのたびに復興を遂げてきました。しかし東京の地下には、こうした工事の爪痕をかいくぐって東京以前の遺構や遺物が残されています。特に注目すべきは近世の遺跡で、都心部に残されたこの巨大な近世都市の遺跡は、今では江戸遺跡と呼ばれています。

江戸遺跡研究の基幹をなすのは、遺跡を発掘し、さまざまな物質的なデータを取り出すことができる考古学です。従来、考古学は原始や古代といった古い時代を研究する学問であるとの認識が強く、近世を対象とする研究者はごく少数でした。しかし、広義の遺物を素材として人類の歴史を再構成する考古学は、文献史学や民俗学などとともに、歴史学を構成する重要な方法学の一つであると考えます。

多くの文献史料が残されている近世を知るには、文献を調べるだけで十分ではないか、あるいは考古学は多少の役に立つかもしれないが、補助的なものに過ぎないだろう、という考えも広く存在します。しかし、歴史というのは、政治、軍事、経済や、さまざまな事件ばかりから成り立つものではありません。人々の日常の暮らしの変化も重要な歴史の構成要素です。こうした事柄の解明には、民俗資料を素材とする民俗学や、物質資料を素材とする考古学が務めて有効です。

このように考古学が取り扱う時間的な範囲に制限はありません。したがって、近世も当然考古学の対象であり、この時代を研究することで大いに貢献できると主張したのが、昭和44年（1969）の中川成夫・加藤晋平による「近世考古学の提唱」という発表で、以後近世考古学の重要性が認識されることとなったのです。

2. 近世考古学の流れ

(1) 江戸の考古学事始

東京では、加藤が指導して千代田区内の都立一橋^{ひとつばし}高校構内の発掘調査が行われ、江戸町屋と寺院墓地の跡などが検出されました。昭和50年（1975）、今からちょうど半世紀前のことです。発掘地点は厚い堆積土で覆われ、多様な江戸時代の遺構が残されていました。この調査によって、都心部の地下には想像以上に良好な形で「江戸」が遺跡として残っていることが判明したのです。同じ頃、大坂、京都といった当時の三大都市でも、近世の遺跡が相次いで姿を現し、近世都市の考古学がにわかに注目され始めました。

さらに東京では、平成4年（1992）から丸の内三丁目遺跡、汐留遺跡^{しおどめ}といった広大な大名屋敷の跡が東京都埋蔵文化財センターによって発掘調査され、大きな成果が得られました。それまで同センターは、専ら多摩ニュータウンの開発に対応してきたのですが、以後、江戸遺跡が主要な調査対象に加わったのです。

(2) 江戸の取り扱いの模索

1970年代に入ると、国土の再開発に伴う遺跡の発掘調査体制も全国的に整備が進んできました。80年代には、折からの開発ラッシュで江戸遺跡の保護に対する危機感が高まり、都教委は昭和61年（1986）に、内部に「江戸の取り扱い検討会」を立ち上げ、当該区の意見を聞きながら検討を進めました。

文化庁も、近世の遺跡の取り扱い方針を模索する必要から、直接の問題を抱える都教委と頻りに意見交換を行ってきました。その契機の一つとなったのが、前述の江戸の大名屋敷の大規模な発掘調査でした。都心部に残る広大な大名屋敷の取り扱いは、今後の再開発にも大きな影響を与えると予想されたからです。

平成10年（1998）、文化庁は都道府県教委宛に「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」（略称「円滑化通知」「平成10年通知」）を通知、この中で埋蔵文化財として扱う範囲をおおむね中世までとし、近世に属する遺跡については地域において必

要なものを対象とすることができる。近現代の遺跡については、「地域において特に重要なものを対象とすることができる」としました。

この通知を受けて都教委は、各区市町村に「必要な近世遺跡」、「特に重要な近現代の遺跡」を選定するように促し、複数区にまたがる広域な近世都市江戸については、一定の指針の必要性から、「江戸遺跡」の範囲を提示しました。都教委の考え方では、江戸遺跡のほかに宿場町などの近世遺跡、軍需施設などの近現代の遺跡の提示を期待していたのですが、区市町村からは大きな反応はみられませんでした。

こうした経緯を経ながらも、江戸遺跡の発掘調査は増加の一途をたどり、武家屋敷はもとより町屋敷、寺院や墓地、江戸城や奉行所など、さまざまな地点で発掘調査が行われてきました。また、江戸遺跡のみならず、多摩地域の宿場町や生産遺跡などにも広がり、その成果は枚挙に暇がないほどです。

3. これからの江戸遺跡

(1) 埋蔵文化財行政の転換

本来、埋蔵文化財は保護されるべき対象ですが、開発に際し、大半は抗しきれずにやむなく発掘調査を行って記録を残し、遺物を回収するという、保護に準じる対応がとられているのが現状です。東京のように地価が高く、開発が盛んな巨大都市ではなおさら現状保存は難しい状況にあります。ですから、発掘調査によって蓄積された記録によって支えられる今日のような近世考古学研究の隆盛は、このような都市再開発の落し子ともいえます。

一方で、再開発を推進してきたバブル経済が1990年代初頭に崩壊すると、連動して江戸遺跡の発掘調査も勢いを止め、90年代半ばにピークを迎えたのち減少に転じます。これは全国的にも同様の傾向がみられます。これまでの埋蔵文化財行政は、開発に対して遺跡保護に準じる発掘調査を、いかに迅速に効率よく推し進めるかということに注力してきたのですが、この方針を見直す機会が到来したのです。

それは平成19年(2007)の文化審議会による「歴史文化基本構想」や、翌平成20年(2008)に制定された「歴史まちづくり法」にも反映されています。文化財行政が、埋蔵文化財をいかに利活用してゆく

か、という方向にシフトしてゆくこと自体は歓迎されるべき事象かもしれません。各地では、近世城郭の整備や復元が行われ、それに伴って城郭や城下町の発掘調査が盛んに行われるようになりました。こうした施策の根底には、観光立国の確立という背景がうかがわれます。埋蔵文化財を観光資源として利用すること自体は悪いことではありませんが、観光資源のために埋蔵文化財を掘り起こすのは本末転倒にもなるので、注意が必要だと思います。

(2) 近世から近現代へ

半世紀前に、「なぜ近世？」といぶかられた考古学研究でしたが、近年ではさらに近現代考古学が活発化しています。その内容はおもに①日本の近代化の顕彰、②戦争遺跡にみられるような負の遺産の検証、③生活文化の変容の解明に集約されるようです。こうした中で、令和4年(2022)から行われた日本の近代化を象徴する高輪築堤の調査成果が脚光を浴び、近現代遺跡の取り扱いがにわかに注目されてきました。そこで文化庁が設置した、埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会では、この問題を検討し、令和6年(2024)に「近世・近代の埋蔵文化財保護について」という委員会報告を発表しました。ここでは主に「平成10年円滑化通知」に記された「地域において(特に)必要なもの」の具体化に努めています。この「報告」の内容は議論を呼ぶことになると思いますが、特に近世と近代を同列に扱い、「現代」が抜け落ちていることに特色がみられます。

「現代」の扱いは、行政がかかわる「埋蔵文化財」上の扱いでは理解できますが、今後の考古学上では大いに議論してもらいたいと思います。それというのも、現代の歴史資料は文書や遺物といったこれまでの分類では対処しきれない多様性をもっていること、また、当面「現代」を放置しておくことは、近代初頭に近世城郭を破却したり、敗戦末期に戦時史料や武器弾薬・軍関連施設を廃棄・破却したりして、遺跡化した今になって改めて発掘調査を行うことの不合理を、我々は学んでいるはずだからです。近現代を志向する考古学者は、既存の枠にとらわれることなく、歴史資料の新たな取り扱いと保存の方法を模索する時ではないでしょうか。

講演② 都指定有形文化財『旧本田家住宅』の調査について

清水 香

1. 旧本田家住宅について

歴史的建造物の調査・活用には近年、建築の設計・施工に活用されるBIM（三次元の形状・構造、部材情報等の属性を含む建物情報モデルの構築）を手法として用いるHBIM（Historic BIM・Heritage BIM）や3Dモデルの公開など、デジタルデータによる取り組みがあります。しかし現在、一般的な建造物の記録は構造や部材痕跡などの調書作成や写真撮影、肉眼観察による樹種同定、変遷は主に建造物の特徴や部材の痕跡、聞き取り調査によって検討されています。また、建造物は建てられた当時の姿に再現（復原）されることが多く、移築・新築に伴って建物下の遺構や部材痕跡が消失するため、釘や金具、壁材といったミクロな視点からの再検討や広域を対象とした複合的な研究がみられないのが現在の状況です。

国立市は多摩川の北側に広がる武蔵野台地の南端に位置し、旧石器時代、縄文時代から近世の遺跡が29か所発見されています。令和4年度に旧本田家住宅主屋・表門（都指定有形文化財：建造物）を含む範囲が周知の埋蔵文化財包蔵地「本田家住宅跡」として周知されました。発見のきっかけは現在、国立市が進めている江戸時代から現代にかけて本田家の当主が居住した古民家、旧本田家住宅の解体・復原プロジェクトです。国立市は平成23年度から本田家に代々伝えられてきた書画、美術品、民具などに対して基礎調査（悉皆）を開始、約7万点にのぼる資料が当主や地域の歴史を辿ることができる唯一無二の資料群であると位置付けています。平成28年（2016）、本田氏から建物や敷地と共にこれら膨大な資料群が国立市に寄贈されました。

本田家は、家伝によれば江戸時代前期には谷保に移住、馬医や医者、書家などを家業とし、地主・名主として村社会を支えた当主の日記には、新選組の土方歳三（姻戚関係）や近藤勇に関する記述があります。多摩地域の自由民権運動に携わり、国立大学町開発に貢献した当主らが、江戸時代以降に居住したのが旧本田家住宅です。住宅の創建年代は分かっ

ていませんが、主屋内で発見された享保16年（1731）の祈祷札より前に建てられたと推測されており、関東で最古級の古民家として位置づけられます。

2. 調査成果

住宅の変遷を明らかにする目的で、令和4年（2022）～6年（2024）に発掘調査を行っています。主屋の床下には当初と考えられる礎石や地業、床などを支える部材に伴う束石、増・改築などの痕跡が認められ、主に江戸時代から近現代の習俗や生活に関わる遺物が出土しました。現在のところ本田家に残された記録では確認できない半地下空間と複数のカマド跡、養蚕に使用された火炉、当初から現在まで土間として機能していたと考えられる主屋西側では三和土の下から胞衣皿や瓶などの埋納遺構などが検出されました。

また、当初材と考えられる部材を対象とした加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定及びウィグルマッチングの結果、最終形成年輪のある大引が下限（1716-1731cal AD）となり、享保16年（1731）の祈祷札と合わせて考えると、柱や大引などの構造材は伐採後に時間を置かず使用され、主屋完成の直後あるいは数年から十数年後に祈祷札が設置されたと推測しています。

なお、設計・施工者が肉眼観察で判断できなかった部材を中心に樹種同定を実施したところ、多様な樹種が判明したことから、お互いの結果をフィードバックすることで、観察者には樹種判断の正確性の向上、分析者には外材の認識など、新たな観点の共有が有効であることが分かりました。古民家の解体・復原に伴う調査では、考古学や自然科学が様々な情報を提供することから、今後、歴史的建造物の総合的な研究として、地域と人々の歴史の復元への貢献が期待されます。

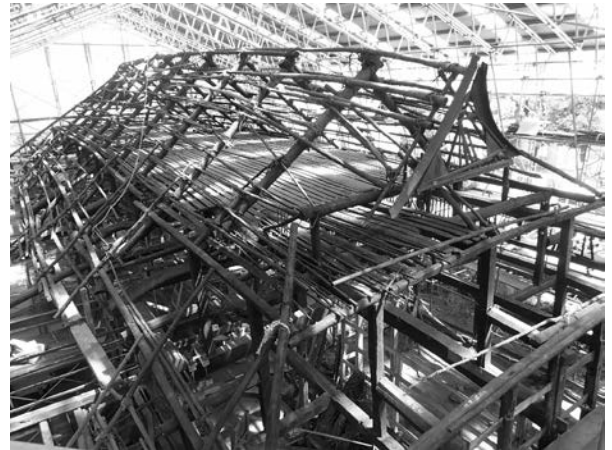
主要参考文献

くにたち郷土文化館 2018『本田家と江戸の文人たち』

中尾七重 2021「合掌造りの謎を解く—¹⁴C年代法を古民家に適用したら、歴史の新しい見方が生まれた—」『樹木・木材と年代研究』朝倉書店、pp. 78-104



第1図 旧本田家住宅表門と主屋



第2図 旧本田家住宅解体工事



第3図 半地下空間と石組カマド・炉跡



第4図 火炉（養蚕関連遺構）



第5図
調査区全景

1. 近世考古学の中の江戸と多摩

1970年代に近世考古学が本格化していく過程で、近世遺跡に対する関心は、江戸と多摩で大きな差はなかったように見えます。

昭和44年(1969)の中川成夫・加藤晋平による「近世考古学の提唱」(中川・加藤1969)が発表された頃、昭和47年(1972)には多摩の八王子市松山廃寺の調査(八王子市寺田遺跡調査会1973)が行われ、江戸府内では昭和50年(1975)に千代田区都立一橋高校遺跡の発掘(都立一橋高校内遺跡調査団1985)がありました。その後、1980年代中頃以降江戸遺跡の調査は活発化し、近世考古学における調査・研究の中心地の一つとなりましたが、それとともに近世の多摩を対象にした考古学も進展しました。

ここでは、その成果から、とくに都市江戸と多摩を含めた周辺の村と町の関係について考えてみます。

2. 近世の都市と村の関係について

近世の都市と村の関係について、民俗学の柳田国男が「町作りは乃ち昔から、農村の事業の一つであった」とする「都市農村連続論」を主張したことはよく知られています(柳田国男1929)。

歴史学の塚本学は、これを「村あつての町」「町あつての村」という言葉で次のように述べています(塚本1992)。

(江戸をはじめとする三都や、各地の城下町・宿場町などの都市での)大量の消費物資の多くは、村で生産されたし、人も村からきたものが多かった。都市の繁栄は村に依拠したのであり、村があつてはじめて町が成立した。だが、反面において、近世の村も町あつての村であった。武士身分に専業化したものが町に出ていったことで生まれたのが、近世の村の一般のすがただった。

このように、近世の都市と村は「連続的」であり、互いに「依拠」し合う関係であったとする考えを本論の出発点とします。

3. 「中世」から「近世」へ

近世都市江戸は、天正18年(1590)の徳川家康の江戸入府に始まりますが、それ以前の後北条氏支配下の江戸は広い武蔵野の一角の寒村ではなく、陸上交通や水上交通の結節点でした。

江戸の都市化以前の様相は、発掘調査によって明らかにされつつあります。文京区小石川一丁目遺跡では、寛永12年(1635)にこの地を拝領した、豊前國小倉藩小笠原家中屋敷の盛土下から畦畔・溝をとともう水田跡が検出されました。こうした小石川谷の江戸時代初期の景観はそれ以前に遡るとされています(テイケイトレード株式会社2022)。

多摩の村落遺跡について、渋江芳浩は16世紀中ばまでに集落・居館の廃絶、16世紀後半の水田再開発(水田の全面化)という考古学的現象を指摘し、後北条氏支配下の「地方巧者」が村落景観の近世化を担ったと述べています(渋江2010)。多摩の村落景観の「近世」は、都市江戸の「近世」に先行したようです。

4. 村の中の陣屋・菩提寺

17世紀の村には、武士の陣屋や居宅がありました(渋江2010)。陣屋の伝承地である清瀬市下宿内山遺跡の大型掘立柱建物跡や(東京都清瀬市下宿内山発掘調査会1986)、「伝柴田屋敷」である三鷹市島屋敷遺跡の大型掘立柱建物跡、庭園などが発掘されています(東京都埋蔵文化財センター1998・2002)。

狛江市田中・寺前遺跡、寺前東遺跡では、狛江の和泉村の一部を支配した、旗本石谷家陣屋(下屋敷)の17世紀の遺構・遺物が出土しており(国際文化財株式会社2016・2019)、石谷家の菩提寺である泉龍寺には墓所や位牌が残されています(狛江市史編集専門委員会2021)。在地を支配した武士と村の関係については、考古学的知見から考えていく必要があるでしょう。

5. 在郷町

村の中には宿場町・門前町などの在郷町が存在し

ました。近世都市は、江戸などの三都、各地の城下町、宿場町などの在郷町とネットワークを形成しており、村にとって在郷町はその窓口の一つでした。

多摩の宿場町では、府中宿跡の調査が行われています（府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 1996）。18 世紀末以降に、甲州街道沿いに町家が建ち並び、裏に地下室・ごみ穴が構築された様相が示されています。

6. 村の景観

近世の村の景観を構成していたのは、民家などの建物、田・畑、里山などです。多摩の近世民家については、18 世紀まで掘立柱建物が残り、18 世紀後半から 19 世紀初頭に礎石建物に変化したことが指摘されています（渋江 1987、梶原 2001）。また、永田史子は、旧武蔵・相模地域の埼玉県・東京都・神奈川県近世民家の規模の変化と掘立柱建物から礎石建物への転換時期を検討し、18 世紀代の階層を問わない礎石建てへの転換は、消費社会への民衆の欲求を反映したものと考えています（永田 2024）。

近世の村の景観は、里山の成立を含む環境史の問題です。辻誠一郎は、関東平野の弥生時代以降の植生史と人間活動における変化を明らかにする中で、近世の 18 世紀初頭に森林植生の大規模な改変が行われ、マツ林やスギ林が人為的に造られたことを指摘しています（辻 1997）。このように、村の景観は 18 世紀に画期があったように見えます。

7. 都市から村へ、村から都市へ、

近世都市と村の関係は、都市から村へ、村から都市へもたらされたモノから読み取ることができます。土蔵や瓦葺き建物、庭園、墓標などに加えて、髪飾り・化粧道具、煎茶道具、喫煙具、灯火具・暖房具、植木鉢などは三都・各藩の城下町から在郷町にやや遅れて伝播したようです。また、下肥^{しもごえ}、薪炭^{たん}、野菜や在地産の焼き物などは、都市と村の関係を示すものでした（東広島市教育委員会 2005）。

なお、植物生態学の沼田真は、都市環境に物質・エネルギー・人口・情報などがインプットされ、それらが形を変えて出て行く「都市生態系」を提示しています（沼田 1982）。これは都市と村をめぐる環境史につながる視点だと思います。

8. 東京と多摩の近現代

東京の近現代考古学の様相は、①殖産興業から産

業革命、資本主義の発展へ、②近代的軍隊の創設から「帝国」の時代へ、③文明開化と西洋文化の受容、④前近代の社会・文化の伝統と変容に整理することが可能であり、近世から近現代の連続性と非連続性という問題を内包していると考えられます（谷川 2023）。多摩の近現代の産業遺跡や戦争遺跡は首都東京との関係において論じる必要がありますが、多摩の西洋化及び前近代の伝統と変容の問題も重要だと思います。

引用・参考文献

- 梶原 勝 2001 「多摩地域における近世の掘立柱建物」 『埋もれた中近世の住まい』 同成社
- 国際文化財株式会社 2016 『田中・寺前遺跡―第 6 次調査（第 16 地点）発掘調査報告書―』
- 国際文化財株式会社 2019 『寺前東遺跡―第 3 次調査（第 13 地点）発掘調査報告書―』
- 狛江市史編集専門委員会 2021 『新狛江市史』 狛江市
- 渋江芳浩 1987 「近世農家のイメージ」 『貝塚』 40
- 渋江芳浩 2010 「多摩と江戸の村落景観」 『中世はどう変わったか』 高志書院
- 谷川章雄 2023 「近現代遺跡の中の高輪築堤跡」 『考古学ジャーナル』 790
- 塚本 学 1992 『村の生活文化』 日本の近世 8 中央公論新社
- 辻誠一郎 1997 「関東平野における弥生時代以降の植生史と人間活動」 『国立歴史民俗博物館研究報告』 72
- テイケイトレード株式会社埋蔵文化財事業部 2022 『小石川一丁目遺跡』
- 東京都清瀬市下宿内山発掘調査会 1986 『下宿内山遺跡』
- 東京都埋蔵文化財センター 1998 『島屋敷遺跡』
- 東京都埋蔵文化財センター 2002 『島屋敷遺跡―第 3 次調査―』
- 都立一橋高校内遺跡調査団 1985 『江戸 都立一橋高校地点発掘調査報告書』
- 中川成夫・加藤晋平 1969 「近世考古学の提唱」 『日本考古学協会第三五回総会研究発表要旨』
- 永田史子 2024 「近世民家の規模の変化とその背景」 『日本考古学』 58
- 沼田 真 1982 「都市生態系」 『東京の生物史』 紀伊國屋書店
- 八王子市寺田遺跡調査会 1973 『松山廃寺』
- 府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 1996 『武蔵国府関連遺跡調査報告』 17
- 東広島市教育委員会 2005 『近世宿場町の景観と流通』 第 10 回安芸のまほろばフォーラム記録集
- 柳田国男 1929 『都市と農村』 （定本柳田国男集 16 筑摩書房）

参考資料 第1回から第49回までの発表遺跡等のリスト

回	開催年月日	開催地	発表遺跡等(口頭・誌上)	講演・討論会・特別発表・映画等
1	昭和50年(1975)12月14日	小金井市	口頭 【千代田区】一ツ橋高校内遺跡,【新宿区】落合遺跡,【文京区】動坂遺跡,【葛飾区】葛西城址,【八王子市】櫛田第Ⅲ遺跡,【八王子市・多摩市】多摩ニュータウン内遺跡,【小金井市】前原遺跡,【小平市】鈴木遺跡,【日野市】万蔵院台遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺遺跡,【清瀬市】野塩西原遺跡	
2	昭和52年(1977)1月23日	文京区	口頭 【世田谷区】堂ヶ谷戸遺跡,【杉並区】高井戸東遺跡,【八王子市】櫛田第Ⅴ遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【昭島市】経塚下遺跡,【町田市】なすな原遺跡,【小金井市】貫井遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺関連遺跡,【多摩市】中和田横穴墓・多摩ニュータウンNo.27遺跡,【西東京市】下野谷遺跡	
3	昭和53年(1978)3月12日	品川区	口頭 【杉並区】南方峰遺跡,【八王子市】八王子城跡根小屋部分・櫛田第Ⅱ遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【調布市】染地遺跡第Ⅷ地区,【町田市】なすな原遺跡,【小金井市】荒牧遺跡,【小平市】鈴木遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺遺跡・多摩蘭坂遺跡,【清瀬市】下宿内山遺跡,【東久留米市】新山遺跡,【その他】多摩ニュータウンの基礎調査	
4	昭和53年(1978)12月3日	中野区	口頭 【世田谷区】下山遺跡,【八王子市】櫛田第Ⅳ遺跡・桜田遺跡,【青梅市】喜代沢遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【日野市】平山遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺遺跡市立第四中学校々地,【武蔵村山市】吉祥山遺跡,【羽村市】山根坂上遺跡,【あきる野市】前田耕地遺跡,【八丈町】湯浜遺跡・倉輪遺跡	
5	昭和54年(1979)12月9日	杉並区	口頭 【港区】伊皿子貝塚,【世田谷区】下山遺跡,【板橋区】成増1丁目遺跡,【八王子市】神谷原(櫛田第Ⅱ)遺跡・弁天池北遺跡・多摩ニュータウンNo.556遺跡,【青梅市】霞台遺跡群,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【調布市】上布田遺跡第Ⅱ地点(仮称),【町田市】相原坂下遺跡・小山田No.13遺跡・なすな原遺跡・天沼窪跡,【小金井市】はけうえ遺跡,【日野市】落川遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【あきる野市】前田耕地遺跡	
6	昭和56年(1981)3月8日	品川区	口頭 【千代田区】江戸城址竹橋門地区,【世田谷区】堂ヶ谷戸遺跡・嘉留多遺跡・砦7号墳,【渋谷区】豊沢貝塚,【杉並区】松ノ木遺跡,【八王子市】神谷原(櫛田第Ⅱ)遺跡・多摩ニュータウンNo.426遺跡・深沢遺跡・小田野城址,【三鷹市】井の頭池遺跡群A地点,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【調布市】飛田給遺跡,【町田市】成瀬西遺跡群・なすな原遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【東久留米市】多聞寺前遺跡,【多摩市】新堂遺跡,【稲城市】多摩ニュータウンNo.4遺跡	
7	昭和57年(1982)3月14日	立川市	口頭 【新宿区】落合遺跡(目白学園),【目黒区】中目黒遺跡,【世田谷区】上野毛稲荷丸北遺跡・下野毛岸横穴群,【杉並区】高井戸山中遺跡,【葛飾区】葛西城址,【八王子市】宇津木台遺跡群,【八王子市・多摩市】多摩ニュータウン内遺跡,【三鷹市】東京天文台構内遺跡・三鷹市No.37遺跡,【立川市】武蔵国府関連遺跡濱尾ビル地区・美好町タウンホーム地区他・武蔵国分寺遺跡関連府中病院内地区,【調布市】下布田遺跡,【町田市】小山田No.27遺跡,【日野市】神明上北遺跡・落川遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【多摩市】東寺方遺跡,【あきる野市】前田耕地遺跡,【その他】東京都島嶼地域の遺跡分布調査	
8	昭和58年(1983)3月13日	目黒区	口頭 【港区】旧芝離宮庭園,【目黒区】目黒不動遺跡,【世田谷区】下山遺跡・野毛大塚古墳,【北区】八幡原遺跡,【八王子市】中野明神社遺跡・宇津木台遺跡群・八王子城跡,【青梅市】馬場遺跡,【立川市】大和田遺跡,【府中市】武蔵台遺跡・武蔵国府関連遺跡区画整理北口駅前地区他,【町田市】三輪瓦窯址A-9地点,【小金井市】貫井南遺跡,【日野市】神明上遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【多摩市】多摩ニュータウンNo.740遺跡・No.769遺跡,【あきる野市】前田耕地遺跡・二宮城跡,【大島町】下高洞遺跡	【映画】縄文のロマンをさぐる一大島町下高洞遺跡の調査一
9	昭和59年(1984)2月12日	世田谷区	口頭 【品川区】大井鹿島遺跡,【目黒区】大橋遺跡,【大田区】馬込貝塚遺跡,【世田谷区】堂ヶ谷戸遺跡・下神明遺跡,【中野区】(仮称)中野刑務所遺跡,【北区】八幡原(星美学園内)遺跡・御殿前遺跡・中里遺跡,【板橋区】徳丸東遺跡,【練馬区】東早淵遺跡・貫井2丁目遺跡,【八王子市】宇津木台遺跡・多摩ニュータウンNo.796遺跡,【三鷹市】山出遺跡,【府中市】清水が丘遺跡・武蔵国府関連遺跡,【調布市】上石原遺跡第5地点,【小金井市】武蔵野公園低湿地遺跡,【日野市】神明上北遺跡,【国分寺市】恋ヶ窪遺跡・武蔵国分寺跡,【武蔵村山市】吉祥山遺跡,【多摩市】和田百草遺跡,【稲城市】多摩ニュータウンNo.513遺跡,【大島町】下高洞遺跡,【利島村】大石山遺跡	【映画】赤土は語る
10	昭和60年(1985)3月3日	調布市	口頭 【文京区】東京大学構内(本郷)遺跡,【北区】袋遺跡,【板橋区】氷川神社北方遺跡,【八王子市】多摩ニュータウンNo.388遺跡・石川天野遺跡大谷沢地区・滑坂遺跡,【調布市】下石原(はけ通)遺跡第2地点,【東久留米市】向山遺跡,【多摩市】多摩ニュータウンNo.91遺跡・和田百草遺跡(塚原古墳群),【新島村】吹之江遺跡 誌上 【品川区】大森貝塚遺跡,【大田区】山王四丁目遺跡,【世田谷区】松原羽根木通遺跡,【北区】御殿前遺跡,【八王子市】創価大学・太陽の丘遺跡・宇津木台遺跡群,【三鷹市】野水橋横穴墓群,【青梅市】裏宿・寺改戸遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺址,【あきる野市】前田耕地遺跡2区,【利島村】大石山遺跡	【特別講演】乙益重隆「装飾古墳壁画文様の一解釈」
11	昭和61年(1986)3月9日	杉並区	口頭 【港区】芝公園1丁目遺跡,【文京区】東京大学本郷構内遺跡,【世田谷区】下神明遺跡,【中野区】北江古田遺跡,【板橋区】円福寺西方(段田)遺跡,【八王子市】多摩ニュータウンNo.402遺跡・小比企向原A・B遺跡・八王子城跡根小屋地区,【調布市】中耕地遺跡第3地点,【多摩市】和田・百草遺跡(塚原古墳群),【稲城市】多摩ニュータウンNo.513遺跡,【奥多摩町】白丸・西の平遺跡,【八丈町】倉輪遺跡 誌上 【文京区】真砂遺跡,【目黒区】東山遺跡,【杉並区】塚山遺跡,【北区】赤羽台(星美学園内)遺跡,【板橋区】四葉地区遺跡,【八王子市】宇津木台遺跡群,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【小金井市】はけうえ遺跡,【国分寺市】恋ヶ窪南遺跡・武蔵国分寺跡,【国立市】下保谷一号墳,【狛江市】弁財天池遺跡	

回	開催 年月日	開催地	発表遺跡等(口頭・誌上)	講演・討論会・ 特別発表・映画等
12	昭和 62年 (1987) 3月8日	国分寺市	口頭 【港区】港区No. 87遺跡,【文京区】東京大学本郷構内遺跡医学部付属病院建設予定地点,【世田谷区】堂ヶ谷戸遺跡,【八王子市】小比企向原C遺跡・多摩ニュータウンNo. 692遺跡・八王子城跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【小金井市】野川中州北遺跡,【日野市】落川遺跡,【大島町】下高洞遺跡D地区 誌上 【世田谷区】喜多見陣屋遺跡,【北区】赤羽台古墳群,【葛飾区】葛西城跡南地点,【八王子市】宇津木台遺跡群・富士見町遺跡,【武蔵野市】御殿山遺跡,【青梅市】城の腰遺跡,【府中市】武蔵台遺跡,【町田市】小山高町遺跡,【日野市】栄町遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【多摩市】稲荷塚古墳,【あきる野市】留原遺跡	【講演】滝口 宏「武蔵国分寺について」
13	昭和 63年 (1988) 2月21日	新宿区	口頭 【新宿区】發昌寺跡遺跡,【台東区】護国院遺跡,【板橋区】四葉地区遺跡群,【八王子市】八王子城跡,【調布市】下石原遺跡第4地点,【町田市】真光寺・広袴遺跡群,【狛江市】弁財天池遺跡,【多摩市】塚原5号古墳,【稲城市】多摩ニュータウンNo. 471-B遺跡・No. 471遺跡 誌上 【港区】芝神明町町屋跡遺跡,【新宿区】三栄町遺跡,【文京区】神田上水遺跡,【世田谷区】下山遺跡,【北区】七社神社前遺跡,【板橋区】早瀬前遺跡,【葛飾区】鬼塚遺跡,【三鷹市】井の頭池遺跡群A地点,【青梅市】下清水遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【狛江市】田中・寺前遺跡,【新島村】田原遺跡	【講演】鈴木公雄「近世考古学の可能性」
14	平成 元年 (1989) 2月12日	北区	口頭 【台東区】白鷗高校遺跡,【北区】御殿前遺跡,【板橋区】大門遺跡,【葛飾区】本郷遺跡,【八王子市】多摩ニュータウンNo. 796遺跡・八王子城跡,【青梅市】丸山遺跡,【町田市】多摩ニュータウンNo. 200遺跡,【狛江市】弁財天池遺跡,【八丈町】八重根遺跡 誌上 【新宿区】北山伏町遺跡,【目黒区】東山遺跡,【世田谷区】諏訪山遺跡,【練馬区】弁天池低湿地遺跡,【八王子市】郷田原遺跡,【立川市】向郷遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡京所国庁推定地,【町田市】都道2・1・5号線遺跡・真光寺・広袴遺跡群向遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【狛江市】東和泉遺跡(仮称),【多摩市】塚原古墳群,【新島村】田原遺跡	【講演】小林三郎「古墳副装(マ)鏡をめぐる諸問題」
15	平成2年 (1990) 2月25日	練馬区	口頭 【新宿区】内藤町遺跡,【品川区】居木橋遺跡D地区,【北区】七社神社前遺跡,【練馬区】愛宕下遺跡,【葛飾区】古録天遺跡,【八王子市】館町515遺跡・多摩ニュータウンNo. 107遺跡・南多摩窯址群東京造形大学宇津貫校地内遺跡,【青梅市】霞台遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡 誌上 【港区】林野庁六本木宿舍跡地内遺跡,【新宿区】戸山遺跡,【目黒区】目黒不動遺跡,【大田区】多摩川台1・2号古墳,【豊島区】染井遺跡群,【三鷹市】坂上遺跡,【府中市】高倉6号墳,【町田市】多摩ニュータウンNo. 211遺跡(仮称小山城跡),【小金井市】中山谷遺跡,【日野市】南広間地遺跡43地点,【国立市】南養寺遺跡,【東久留米市】神明山南遺跡,【武蔵村山市】野山第3遺跡	【講演】斎藤 忠「学史における東京周辺の諸問題」
16	平成3年 (1991) 3月10日	三鷹市	口頭 【新宿区】細工町遺跡,【目黒区】円融寺南遺跡,【世田谷区】岡本前耕地遺跡,【中野区】遠藤山遺跡,【北区】御殿前遺跡,【立川市】向郷遺跡,【調布市】原山遺跡,【町田市】多摩ニュータウンNo. 243・244遺跡・No. 342遺跡,【国立市】峰上遺跡,【新島村】田原遺跡 誌上 【港区】港区No. 91遺跡,【大田区】多摩川台古墳群1・2・9号墳,【板橋区】板橋市場内遺跡,【練馬区】中宮遺跡,【葛飾区】本郷遺跡,【青梅市】寺改戸遺跡,【府中市】本宿町遺跡,【町田市】忠生遺跡B1地区,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【狛江市】弁財天池遺跡,【東久留米市】自由学園南遺跡,【その他】三鷹市域における都市型分布調査の課題	【講演】新藤康夫「史跡 八王子城跡の整備事業」
17	平成4年 (1992) 3月20日	板橋区	口頭 【新宿区】尾張藩上屋敷遺跡・四谷三丁目遺跡,【品川区】池田山北遺跡,【目黒区】新富士遺跡,【世田谷区】野毛大塚古墳,【板橋区】成増との山遺跡,【練馬区】東京外かく環状道路練馬地区遺跡,【調布市】染地遺跡,【町田市】多摩ニュータウンNo. 916遺跡,【国分寺市】恋ヶ窪東遺跡 誌上 【新宿区】高田馬場三丁目遺跡,【文京区】東京大学本郷構内遺跡医学部附属病院外来棟地点,【北区】亀山遺跡,【板橋区】四葉地区遺跡,【葛飾区】立石遺跡,【八王子市】南多摩窯址群G-36・66号窯址・八王子城跡,【三鷹市】島屋敷・柴田陣屋遺跡,【青梅市】大平遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【調布市】飛田給北遺跡,【日野市】南広間地遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡	
18	平成5年 (1993) 2月14日	葛飾区	口頭 【世田谷区】野毛大塚古墳・喜多見陣屋遺跡,【北区】豊島馬場遺跡,【練馬区】南於林遺跡,【葛飾区】立石遺跡,【八王子市】八王子城跡,【青梅市】新町の大井戸,【町田市】多摩ニュータウンNo. 939遺跡,【国立市】南養寺遺跡 誌上 【千代田区】一番町遺跡,【港区】伊勢菰野藩土方家屋敷跡,【新宿区】市谷本村町遺跡,【渋谷区】北青山遺跡,【北区】東谷戸遺跡・飛鳥山遺跡・宮堀北遺跡・七社神社前遺跡・七社神社裏遺跡,【練馬区】東京外かく環状道路練馬地区遺跡,【葛飾区】新宿町遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【国立市】下谷保遺跡	
19	平成6年 (1994) 2月13日	小平市	口頭 【文京区】東京大学本郷構内遺跡工学部14号館地点,【板橋区】志村坂上遺跡F地点,【足立区】伊興・舍人遺跡,【八王子市】北大谷古墳,【青梅市】駒木野遺跡,【府中市】武蔵台東遺跡,【小平市】鈴木遺跡,【日野市】落川区画整理地区,【国分寺市】多摩蘭坂遺跡 誌上 【港区】旧汐留貨物駅跡地内遺跡,【練馬区】栗山遺跡,【葛飾区】上千葉遺跡,【八王子市】多摩ニュータウンNo. 72遺跡・南八王子地区No. 11遺跡,【三鷹市】島屋敷遺跡,【町田市】多摩ニュータウンNo. 327・330遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【新島村】帆縫原遺跡	【講演】金子浩昌「動物遺体と考古学」

回	開催 年月日	開催地	発表遺跡等(口頭・誌上)	講演・討論会・ 特別発表・映画等
20	平成7年 (1995) 2月19日	目黒区	口頭 【目黒区】大橋遺跡,【大田区】環8光明寺地区遺跡,【北区】飛鳥山遺跡,【板橋区】菅原神社台地上遺跡,【八王子市】南多摩窯跡群八王子ニュータウン地区,【青梅市】山根遺跡,【国立市】関跡物跡遺跡,【多摩市】稲荷塚古墳,【日の出町】三吉野遺跡群欠上・下モ原地区 誌上 【新宿区】江戸城外堀跡・四谷御門外町屋跡,【台東区】東京国立博物館構内遺跡平成館(仮称)建設予定地,【墨田区】錦糸町駅北口遺跡,【北区】御殿前遺跡・志茂遺跡・田端西台通遺跡・十条久保遺跡,【板橋区】四葉地区遺跡,【三鷹市】羽根沢台遺跡,【国分寺市】武蔵国分尼寺跡	【講演】吉田 格「目黒区の遺跡と遺物」
21	平成8年 (1996) 2月4日	墨田区	口頭 【港区】善福寺寺域遺跡,【新宿区】西早稲田三丁目遺跡,【台東区】上野忍岡遺跡群,【大田区】宝来山古墳,【北区】豊島馬場遺跡,【足立区】若宮八幡神社遺跡,【葛飾区】鬼塚遺跡,【八王子市】打越大畑遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡武蔵国府推定地,【町田市】多摩ニュータウンNo.200遺跡・No.201遺跡,【国分寺市】武蔵国分尼寺跡北方伝祥応寺跡地区	【記念講演】白石浩之「南関東地方の旧石器文化」
22	平成9年 (1997) 2月2日	八王子市	口頭 【港区】旧汐留貨物駅跡地内遺跡,【台東区】上野忍岡遺跡群,【墨田区】江東橋二丁目遺跡,【北区】中里貝塚,【足立区】中曽根城跡,【葛飾区】鬼塚遺跡,【八王子市】石川天野遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡武蔵国府推定地,【国分寺市】恋ヶ窪東遺跡・西国分寺地区遺跡,【多摩市】和田西遺跡,【西東京市】下野谷遺跡,【日の出町】三吉野遺跡群(圈央道日の出I・C地区)	【映画】森と縄文人
23	平成10年 (1998) 2月1日	千代田区	口頭 【千代田区】丸の内一丁目遺跡,【新宿区】河田町遺跡・荒木町遺跡・尾張藩上屋敷跡遺跡,【大田区】久が原グリーンハイツ内遺跡,【板橋区】西台後藤田遺跡,【葛飾区】鬼塚遺跡,【八王子市】尾崎遺跡,【立川市】立川氏館跡遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡国府八幡神社周辺,【町田市】多摩ニュータウンNo.313・960遺跡,【東村山市】下宅部遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡,【多摩市】和田西遺跡	
24	平成10年 (1998) 12月6日	立川市	口頭 【新宿区】尾張徳川家下屋敷跡,【文京区】讃岐高松藩松平家・陸奥守山藩松平家下屋敷遺跡,【世田谷区】明治薬科大遺跡,【北区】赤羽台遺跡国立王子病院跡地地区,【葛飾区】柴又八幡神社古墳,【府中市】武蔵国府関連遺跡中世武蔵府中並木西ビル地区,【国分寺市】武蔵国分寺跡北方地区,【稲城市】瓦谷戸窯跡群,【あきる野市】代継・富士見台遺跡	【特別講演】橋口定志「中世居館研究の現状」
25	平成11年 (1999) 12月5日	中央区	口頭 【千代田区】栖岸院跡,【港区】汐留遺跡(陸奥仙台藩伊達家上屋敷庭園跡),【新宿区】北新宿二丁目遺跡,【台東区】谷中三崎町遺跡(正運寺跡),【大田区】久原小学校内遺跡,【世田谷区】不動橋横穴墓群,【葛飾区】葛西城跡,【府中市】武蔵国分寺跡関連遺跡・武蔵国府関連遺跡,【東村山市】下宅部遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡北方地区 誌上 【葛飾区】柴又八幡神社古墳	【特別講演】谷川章雄「江戸の武家屋敷と庭園」
26	平成12年 (2000) 12月3日	武蔵野市	口頭 【千代田区】飯田町遺跡,【中央区】日本橋二丁目遺跡,【文京区】真砂遺跡第V地点,【大田区】雪ヶ谷貝塚,【葛飾区】柴又八幡神社古墳,【八王子市】多摩ニュータウンNo.72遺跡・中野甲の原遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡(白糸台地域下層遺跡),【調布市】野水遺跡,【東村山市】下宅部遺跡,【国分寺市】武蔵国分寺跡北方地区,【奥多摩町】海沢下野原遺跡 誌上 【新宿区】行元寺跡,【文京区】原町遺跡第Ⅲ地点,【台東区】上野桜木町遺跡,【足立区】千住宿間屋場・貫目改所跡	
27	平成14年 (2002) 2月3日	港区	口頭 【新宿区】市谷本村町遺跡,【台東区】上車坂町遺跡,【北区】田端不動坂遺跡,【葛飾区】柴又八幡神社古墳,【府中市】武蔵国分寺跡関連遺跡武蔵台西地区・武蔵国府関連遺跡,【調布市】下布田古墳群,【国分寺市】武蔵国分寺跡北方地区,【国立市】四軒在家遺跡,【その他】山地域における遺跡分布調査	【特別講演】澤田秀実「南武蔵の首長墳」
28	平成15年 (2003) 1月19日	三鷹市	口頭 【台東区】上野忍岡遺跡群上野動物園象舎地点・東京芸術大学地点,【墨田区】墨田区No.22遺跡,【北区】西ヶ原貝塚,【荒川区】小塚原刑場跡遺跡,【八王子市】船田遺跡,【三鷹市】丸山A遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【町田市】田端遺跡,【東村山市】下宅部遺跡,【国分寺市】多摩蘭坂遺跡第8地点・武蔵国分寺跡	【映画】小鹿田焼(桜映画社)
29	平成16年 (2004) 2月1日	新宿区	口頭 【港区】萩藩毛利家屋敷跡遺跡,【新宿区】新宿六丁目遺跡・崇源寺・正見寺跡,【文京区】原町東遺跡,【八王子市】子安台遺跡,【三鷹市】島屋敷遺跡,【府中市】武蔵府中熊野神社古墳,【国分寺市】武蔵国分寺跡北方地区・多喜窪遺跡C地点,【大島町】家の上遺跡,【利島村】阿豆佐和気命神社境内祭祀遺跡	【講演】阿部祥人「日本旧石器文化研究の総合化にむけて」
30	平成16年 (2004) 12月19日	青梅市	口頭 【台東区】駒形遺跡・向柳原町遺跡,【中野区】江古田遺跡,【八王子市】多摩ニュータウンNo.72遺跡,【三鷹市】天文台構内遺跡,【青梅市】K-5遺跡・城の腰遺跡,【府中市】武蔵府中熊野神社古墳,【国分寺市】武蔵国分僧寺跡	【講演】久保田正寿「石器作りの実験考古学—両極敲打技法による「打製石斧」の製作—」
31	平成17年 (2005) 12月18日	文京区	口頭 【中央区】銀座八丁目遺跡,【文京区】東京大学本郷構内遺跡地震研究所総合研究棟地点,【世田谷区】騎兵山遺跡,【北区】南橋遺跡第24地点,【練馬区】中村南遺跡第2地点,【三鷹市】御塔坂横穴墓群,【府中市】武蔵国衙跡,【国分寺市】武蔵国分僧寺跡,【あきる野市】中高瀬遺跡	【映画】文京の史跡と文化財をたずねて
32	平成19年 (2007) 1月14日	府中市	口頭 【墨田区】墨田区No.26遺跡,【世田谷区】桜木遺跡・堂ヶ谷戸遺跡,【三鷹市】天文台構内古墳,【調布市・三鷹市】明治大学調布付属校用地遺跡(仮称),【日野市】神明上遺跡横穴墓群,【国分寺市】武蔵国分僧寺跡	【公開討論会】坂詰秀一・佐藤 信・後藤廣史・荒井健治・塚原二郎・岡崎完樹「発掘調査成果からみた武蔵国府と国衙・国府の設置と機能—」
33	平成20年 (2008) 1月14日	台東区	口頭 【文京区】伝通院裏貝塚遺跡,【台東区】池之端七軒町遺跡,【北区】道合遺跡,【八王子市】小田野遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【調布市】御塔坂横穴墓群,【国分寺市】武蔵国分僧寺跡	【特別発表】飯塚武司「遺跡から考える台東区の古代」 【公開講演】望月幹夫「東京国立博物館と日本の考古学」
34	平成21年 (2009) 2月11日	調布市	口頭 【千代田区】江戸城跡北の丸公園地区,【中野区】広町遺跡,【北区】西ヶ原貝塚,【葛飾区】葛西城址,【八王子市】辺名遺跡,【府中市】国史跡武蔵府中熊野神社古墳,【国分寺市】武蔵国分僧寺跡,【西東京市】下野谷遺跡	【特別発表】赤城高志「調布市内の国指定史跡—下布田遺跡・深大寺城跡の調査成果—」

回	開催年月日	開催地	発表遺跡等(口頭・誌上)	講演・討論会・特別発表・映画等
35	平成22年(2010)2月7日	墨田区	口頭 【港区】愛宕下遺跡,【墨田区】肥前平戸新田藩松浦家下屋敷跡・江東橋二丁目遺跡・本所御蔵跡・陸軍被服廠跡,【杉並区】方南町峰遺跡群釜寺東(近隣第一)遺跡,【北区】中里峽上遺跡,【八王子市】鶴舞遺跡,【三鷹市】天文台構内古墳,【府中市】武蔵国府跡,【国分寺市】武蔵国分僧寺跡	【公開講演】谷川章雄「江戸の都市空間と墨東の遺跡」
36	平成22年(2010)12月12日	東村山市	口頭 【文京区】東京大学構内本郷六丁目町屋跡遺跡,【品川区】居木橋遺跡,【杉並区】光明院南遺跡F地点,【北区】中里峽上遺跡,【板橋区】前野兎谷遺跡第3地点,【八王子市】平塚遺跡,【府中市】武蔵国府跡御殿地地区(仮称),【調布市】飛田給北遺跡	【公開講演】千葉敏朗「下宅部遺跡のその後と北川流域遺跡群」
37	平成24年(2012)2月5日	江東区	口頭 【台東区】下谷同朋町遺跡,【江東区】江東区の遺跡,【北区】田端西台通遺跡・西ヶ原遺跡群御殿前遺跡,【板橋区】志村城山遺跡第5地点,【八王子市】滝山高燥遺跡・梅坪・沖の前遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【日野市】山王上遺跡	【公開講演】梶ヶ山真里「骨考古学と江戸時代人骨」
38	平成25年(2013)2月17日	町田市	口頭 【新宿区】新小川町遺跡,【三鷹市】羽根沢台遺跡横穴墓群,【府中市】国史跡武蔵府中熊野神社古墳,【調布市】入間町城山遺跡,【国分寺市】国史跡武蔵国分寺跡,【国立市】緑川東遺跡,【柏江市】猪方小川塚古墳,【大島町】充仁荘遺跡	【公開講演】川口正幸「忠生遺跡―市内最大の複合遺跡―」
39	平成26年(2014)2月16日	品川区	口頭 【千代田区】有楽町一丁目遺跡,【港区】品川台場(第五)遺跡,【新宿区】市谷加賀町二丁目遺跡,【文京区】国特別史跡及び特別名勝小石川後楽園,【北区】桐ヶ丘遺跡,【八王子市】国史跡八王子城跡,【三鷹市】丸山B遺跡,【日野市】平山遺跡,【多摩市】和田・百草遺跡群	【公開講演】松原典明「大名墓から見た品川区」
40	平成27年(2015)2月15日	小平市	口頭 【港区】旗本花房家屋敷跡遺跡,【品川区】播磨国三日月藩森家上屋敷跡遺跡,【杉並区】白幡遺跡,【北区】田端西台通遺跡,【府中市】国史跡武蔵府中熊野神社古墳,【小平市】鈴木遺跡,【日野市】吹上遺跡,【多摩市】落川・一の宮遺跡	【公開講演】佐藤宏之「鈴木遺跡と日本の旧石器時代研究」
41	平成28年(2016)2月14日	目黒区	口頭 【文京区】祥雲寺跡,【目黒区】東山貝塚遺跡,【北区】御殿前遺跡・西ヶ原遺跡群七社神社前遺跡,【練馬区】扇山遺跡,【葛飾区】古録天遺跡,【府中市】国史跡武蔵府中熊野神社古墳,【あきる野市】水草木遺跡	【公開講演】小林謙一「目黒区大橋遺跡と縄紋集落研究の新展開」
42	平成29年(2017)2月19日	小金井市	口頭 【新宿区】新小川町遺跡・市谷本村町遺跡,【北区】十条台遺跡群(南橋遺跡),【板橋区】舟渡遺跡,【八王子市】日向四谷遺跡,【府中市】武蔵台遺跡,【小金井市】市内所在の中世遺跡,【日野市】平山遺跡	【公開講演】坂詰秀一「多摩の考古学123年と小金井」
43	平成30年(2018)2月18日	大田区	口頭 【新宿区】四谷一丁目遺跡,【品川区】南品川寺社門前遺跡,【大田区】新井宿横穴墓群・山王横穴墓群,【世田谷区】下野毛遺跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【調布市】入間町城山遺跡第45・46地点,【小金井市】本町六丁目遺跡,【日野市】川辺堀之内遺跡,【多摩市】多摩市No. 218遺跡	【公開講演】浜田晋介「多摩川低地の遺跡を考える―弥生・古墳時代を事例にして―」
44	平成31年(2019)2月17日	日野市	口頭 【新宿区】下落合二丁目遺跡・市谷本村町遺跡,【杉並区】向ノ原遺跡,【豊島区】池袋東貝塚,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【日野市】平山遺跡,【柏江市】宿屋敷西遺跡	【公開講演】清野利明「その時、歴史が動いた!〜日野の歴史の変換点〜」
45	令和2年(2020)2月15日	都議会 議事堂 1階都民 ホール	口頭 【港区】芝丸山第8号墳,【新宿区】四谷一丁目遺跡,【文京区】小日向一・二丁目南遺跡,【世田谷区】天慶塚古墳,【八王子市】国史跡八王子城跡,【調布市】入間町城山遺跡,【小平市】鈴木遺跡,【日野市】七ツ塚遺跡	【公開講演】伊藤敏行「東京都の文化財保護と遺跡調査」
46	令和3年(2021)2月26日	—	誌上 【中央区】築地市場跡遺跡,【北区】道合遺跡,【練馬区】比丘尼橋遺跡C地点,【八王子市】国指定史跡八王子城跡,【府中市】武蔵国府関連遺跡,【日野市】仁王塚遺跡(真慈悲寺関連),【清瀬市】下宿内山遺跡	【紙面開催】新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
47	令和3年(2021)11月21日	世田谷区	口頭 【港区】高輪南町遺跡,【世田谷区】堂ヶ谷戸遺跡・下野田遺跡,【八王子市】国史跡八王子城跡,【調布市】染地遺跡128地点,【小平市】国史跡鈴木遺跡	【公開講演】寺田良喜「古墳時代の野毛と上毛野―石棺・埴輪・石製模造品の生産と供給にみる首長間交流―」 【オンライン開催】
48	令和5年(2023)1月22日	国分寺市	口頭 【新宿区】納戸町遺跡,【北区】十条台遺跡群南橋遺跡,【板橋区】成増天神脇遺跡横穴墓群,【足立区】花畑遺跡,【江戸川区】上小岩遺跡,【国分寺市】武蔵国分僧寺跡一北方・推定中院地区一・中藤新田分水跡(胎内堀),【東久留米市】川岸遺跡 誌上 【港区】国史跡旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡	【公開講演】酒井清治「武蔵国分寺跡の史跡指定に尽力した郷土史研究者「稲村坦元」の事績」
49	令和6年(2024)3月3日	渋谷区	口頭 【墨田区】墨田区No. 105遺跡,【世田谷区】六所東遺跡,【豊島区】南池袋遺跡,【北区】栄町貝塚,【足立区】伊興・谷下・狭間遺跡,【小金井市】平代坂遺跡,【東久留米市】川岸遺跡	【公開講演】谷口康浩「縄文人骨研究の現在」

註

*遺跡名は、基本的に『発表要旨』の「目次」に記された発表時の遺跡名をそのまま転記。

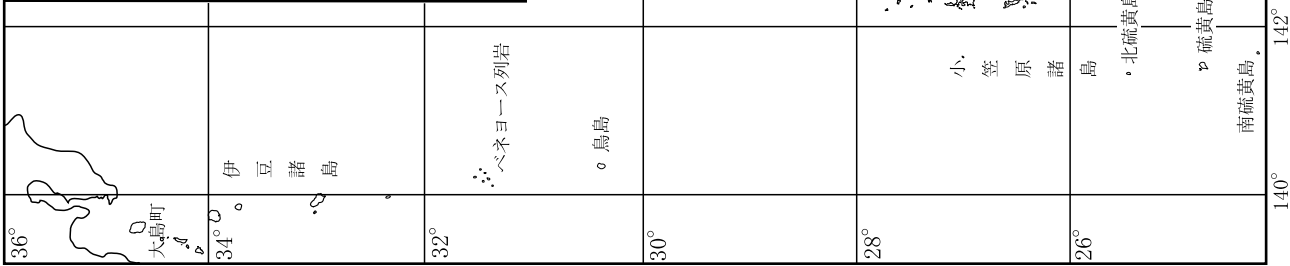
*「貝塚」や「跡」に続いて「遺跡」を記している例もそのまま転記。

*「目次」記載の遺跡名に明らかな誤記がある場合は、『発表要旨』の「発表タイトル」に依拠。

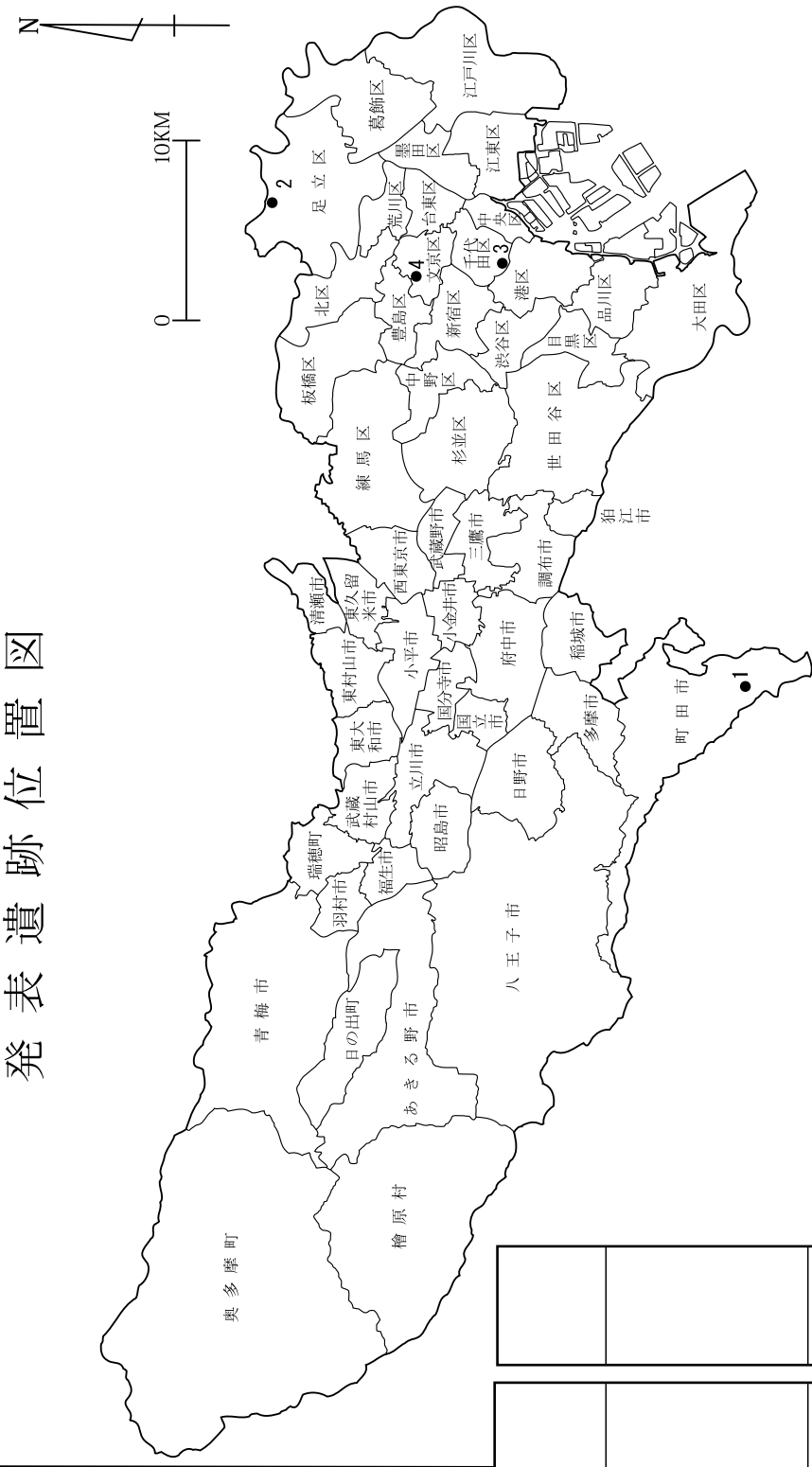
*同じ遺跡の複数回の発表で遺跡名の表記が異なる場合も、各発表年度での「目次」の遺跡名をそのまま転記。

*遺跡名の他に地点名や地区名が『発表要旨』の「目次」ないし「発表タイトル」に記載の場合は、地点名や地区名も追加。

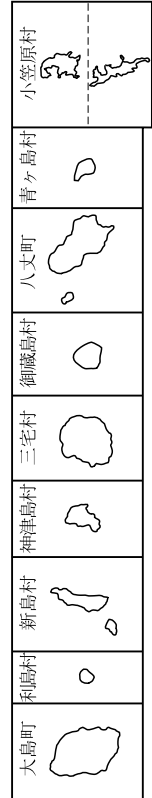
*区市町村名は現行名に置換。



発表遺跡位置図



- 1：史跡 高ヶ坂石器時代遺跡 2：伊興・谷下・狭間遺跡 3：永田町一丁目遺跡
4：原町西遺跡



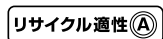
【要旨執筆者一覧】

- 発表 1 後藤貴之（町田市教育委員会）
発表 2 上野未来（足立区地域のちから推進部）
発表 3 佐藤亮太（東京都埋蔵文化財センター）
発表 4 五十嵐 彰（東京都埋蔵文化財センター）
講演① 古泉 弘（江戸遺跡研究会代表・元東京都教育庁）
講演② 清水 香（岩手大学准教授）
講演③ 谷川章雄（早稲田大学名誉教授）

東京都遺跡調査・研究発表会 50 発表要旨
令和 7 年 2 月 9 日発行

東京都教育委員会印刷物登録令和 6 年度第 69 号

編 集 東京都教育委員会
（公財）東京都教育支援機構
東京都埋蔵文化財センター
発 行 東京都教育委員会
印 刷 株式会社まこと印刷



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用しています

